

① 渋谷駅中心地区広場ビジョン 全体構成〔案〕

1. 背景・目的

- ・都市計画決定から15年。工事が進捗。
- ・民地内の公開空地や道路上空占用等による歩行者空間が生まれてきた。
- ・「多様な広場空間の使い方」に焦点を当てた「広場空間のあり方」の議論が必要。
- ・能登半島地震を踏まえ、新ためて防災機能へ期待

2. 本ビジョンの位置づけ・考え方・対象

2.1.位置づけ

- ・指針2010や基盤整備方針2012を具体化

2.2.基本的な考え方

- ・より良いあり方を示すもの
- ・管理運営ルールを決めていく上での指針

2.3.対象

- (1)対象エリア:渋谷駅中心地区
- (2)対象とする広場空間の考え方:官民含めた滞留空間
- (3)対象とする広場空間:具体の対象広場

3. 渋谷の広場を取り巻く環境

3.1.渋谷区のまちづくりの考え方(関連する計画)

- (1)渋谷区まちづくりマスタープラン
- (2)渋谷駅中心地区まちづくり指針2010

3.2.対象エリア周辺の特性

- (1)土地利用
- (2)路線の特性
- (3)将来の歩行者交通量
- (4)管理・運営面での期待と課題

3.3.対象エリア周辺の特性のまとめ

4. 渋谷駅中心地区の広場ビジョン(将来像)

- (1)将来像:スクランブル。
- (2)広場に求められる機能



5. 広場の有する機能・整備・管理運営の考え方

5.1.広場の有する機能の考え方

- (1)ゲート(待合せ)
 - ・考え方のポイント
- (2)憩い・潤い・リラックス
 - ・考え方のポイント
- (3)交流・にぎわい
 - ・考え方のポイント
- (4)情報発信
 - ・考え方のポイント
- (5)防災(非常時)
 - ・考え方のポイント・安全確保計画より

5.2.広場の管理・運営の考え方

- (1)管理・運営に関する考え方
- (2)情報共有・連携に関する考え方

ゲート(待合せ)

- ◆待合せのための確保すべき空間は、将来の歩行者交通量に比例します。
- ◆駅の出入口を踏まえ、歩行者動線に近接して配置することが重要です。
- ◆空間確保と併せて、待ち合わせに対応した設が必要となります。

憩い・潤い・リラックス

- ◆歩行者交通量や周辺の環境、土地利用等様々な要素により決まりますが、快適な空間はそれ自体が利用者を増加させる要因にもなります。
- ◆駅の出入口直近等の、歩行者の流動量が多くゲート機能が重要視される場所でも、現状程度の憩い空間を最低限確保します。
- ◆緑や椅子・テーブル等のファニチャーを設置するなど、周辺の環境に応じた憩いの空間を確保し、憩いの空間を整える設として、周囲の植栽や夏場の日陰等の要素にも留意します。

交流・にぎわい

- ◆各方面において、期待される多様な活動を実現するために必要な面積を確保します。
- ◆中心地区全体で、交通規制を変更せずに、日常的ににぎわいを創出できる空間を確保します。
- ◆カウントダウンや盆踊りのように、交通規制を変更して車道も利用するイベントについては、日常的に必要な広場の議論とは別に、適用面での工夫等も含めて対応することが必要です。

情報発信

- ◆広場には情報を「キャッチできる機能」と情報を「発信できる機能」の両方が重要です。
- ◆まとまった面積を必要とする機能ではありませんが、方面によらず他のすべての機能に付随し、渋谷らしさを形成する大きな要素となります。

防災(非常時)

- ◆非常時に必要な機能ですが、災害時に対応できる備えは、日常的な機能としても必須です。
- ◆安全確保計画を踏まえ、的確な滞留者誘導等に対応できるような情報発信が重要となります。
- ◆一時退避に利用できる空地は、特に駅近傍では不足が見込まれています。

6. 広場ビジョンの実現に向けて

6.1.方面別の機能配置の方針

- (1)北西方面
- (2)北東方面
- (3)南西方面
- (4)南東方面

6.2.方面別方針の実現に向けて

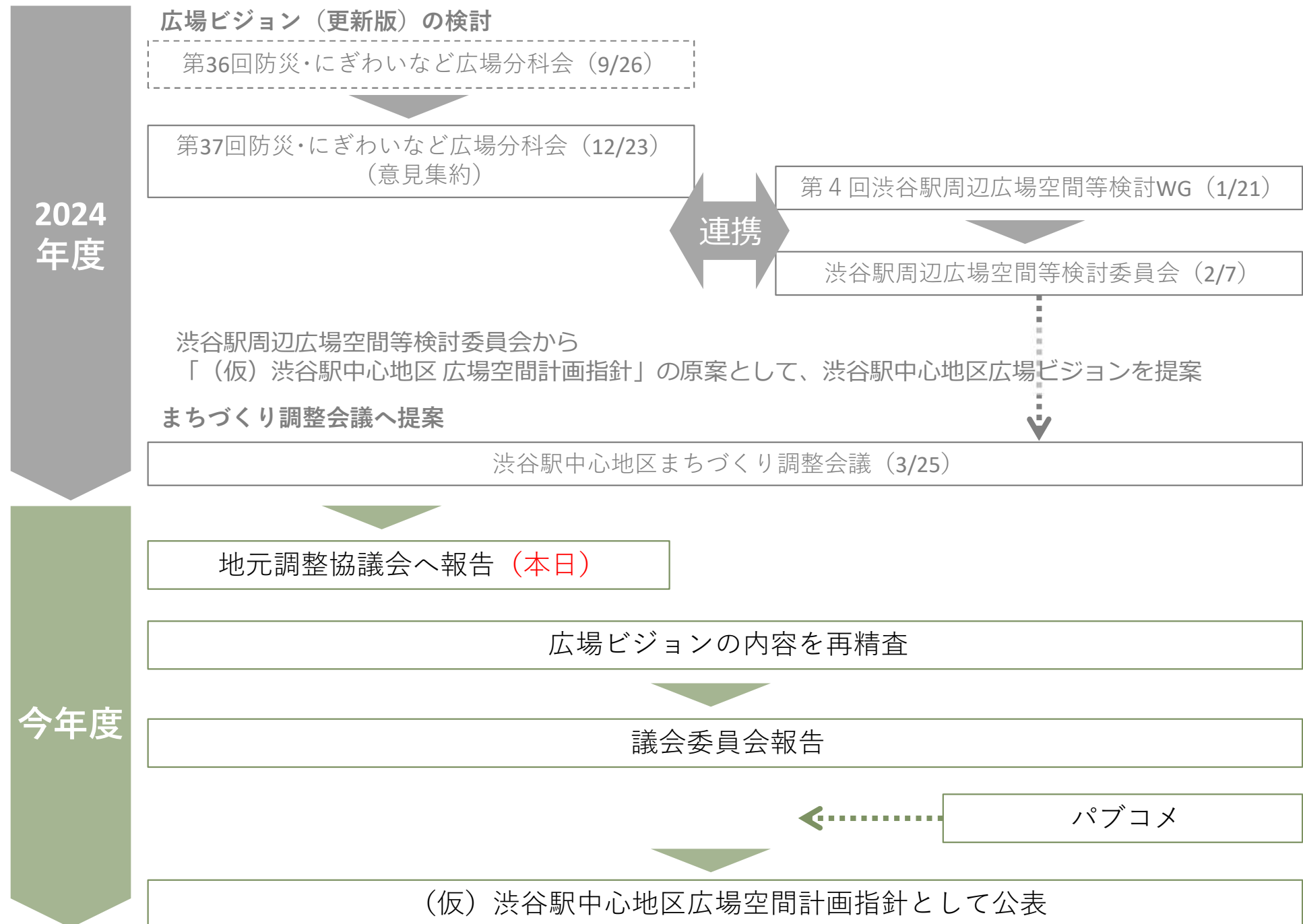
- (1)機能配置の誘導方策
- (2)管理運営の誘導方策

方面別方針の考え方

- ◆交通量が多いため、安全を確保できる待合せ(ゲート)機能が非常に重要
- ◆まちを巡り歩く来街者が短い時間で休憩できる憩い機能が特に求められる
- ◆まちの顔になる方面であり、世界への発信力を持ったにぎわい機能が求められる
- ◆人が多さを活かし、まちの案内など情報をキャッチできる機能と発信ができる機能が重要
- ◆非常時における人の集中が想定され、広域避難の情報提供など防災機能が必要



② 今後の進め方



③ 渋谷駅中心地区広場ビジョン(案)

渋谷 広場

そこで人は、スクランブルる。

そこで、まちへ繰り出す人が付合ひをしぼす。

そこで、働く人がランチを食べたり 読書をしたり。

そこで、訪れた人が流れる音楽に耳を傾けたり 隣の人と一緒に盛り上がりたり。

アイデアを発信したり、友誼が増えたり。

渋谷の広場で、渋谷のまちを彩るすべてが重なり交じり、

そこで人は、スクランブルる。



※令和 7 年 3 月時点案

ご意見踏まえ今後変更の可能性あります。



渋谷駅中心地区広場ビジョン
渋谷駅周辺広場空間等検討委員会

2025 年 3 月

本編目次

1. 背景・目的	1
2. 本ビジョンの位置づけ・構成・対象	3
3. 渋谷の広場を取り巻く環境	7
4. 渋谷駅中心地区の広場ビジョン(将来像)	11
5. 広場が担う機能・管理運営の考え方	13
6. 広場ビジョンの実現に向けて	18

「渋谷駅中心地区広場ビジョン」は、渋谷区が策定を検討している「(仮)渋谷駅中心地区 広場空間計画指針」の原案として、渋谷駅周辺広場空間等検討委員会で検討し、渋谷駅中心地区まちづくり調整会議において承認・提案するものです。

1. 背景・目的

1. 背景・目的

渋谷駅中心地区の都市空間は、都市施設である駅前広場を中心に、上位計画の考え方を踏まえながら具体的な内容が検討され、計画されてきました。東西駅前広場が計画決定された2009年から15年が経過し、工事の進捗により渋谷駅周辺の将来像が徐々に見えるようになり、また、渋谷駅中心地区周辺においても、新たな都市開発の計画・整備が進められています。

これまでの駅前広場（都市施設）は、バス・タクシー及び一般車等の自動車交通処理機能の観点に重きを置き、規模や配置について計画されてきました。その中で歩行者のための空間は、通行のための空間やバス・タクシーの乗降待ちの空間等の面積を積み上げるものの、最終的には自動車等のために必要とされる面積に一定の比率（環境空間比）を乗じて算定し、計画されています。

また、駅直近における民間の大規模開発と併せて、民地内の公開空地等や、道路上空占用等の方法による歩行者空間も創出されてきました。

渋谷駅中心地区のまちづくりが進捗する今、近年の『人間中心の都市空間』といった潮流にも後押しされ、交通処理のための機能にとどまらず、待ち合わせや憩い、何かを発信する等、多くの人が日常的に訪れる渋谷ならではの『多様な広場空間の使い方』の視点に立ち、まちにプラスアルファの価値をもたらす『都市空間（特に、広場空間）』への期待が高まっています。

また、「2022年・国・地域別外国人旅行者行動特性調査/東京都」によると、2022年の調査で訪日外国人の訪問先で最も多かったのは「渋谷」（58.4%）で、インバウンド・観光対応の必要性も高まっています。

さらに、当地域における大規模な地震等が発生した場合に備え、改めて防災性の向上に資する広場空間の果たすべき役割が期待されています。

これらの背景より、道路である駅前広場等に加えて、民地内の公開空地等も対象に、官・民の枠にとらわれず、人々が様々な目的で、安全、快適に使い、災害にも備えられることができるような広場空間が必要と考えます。

本ビジョンは、渋谷駅中心地区ならではの広場空間に求められる機能に着目し、「広場空間のあるべき将来像とその実現に向けた考え方」を示し、よりよい広場整備や管理運営の実現を目指すものです。

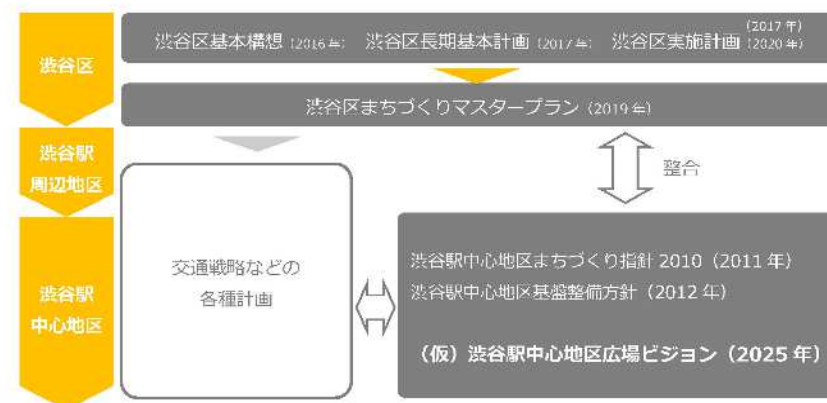
渋谷区

2. 本ビジョンの位置づけ・考え方・対象

2. 本ビジョンの位置づけ・考え方・対象

2.1. 位置づけ

本ビジョンは、これまで渋谷駅中心地区まちづくり指針 2010（2011 年）や渋谷駅中心地区基盤整備方針（2012 年）において示された「広場等に関する将来像」を踏まえつつ、今後の広場整備や管理運営方法などを検討する上での計画指針として位置づけるものです。



▲渋谷駅中心地区広場ビジョンの位置づけ

2.2. ビジョンの主な内容

本ビジョンでは、これまでの関連する計画や最近の社会情勢等を踏まえ、渋谷駅中心地区ならではの「広場空間の将来像」「機能・管理運営」「実現に向けた方策」などの考え方を示します。

広場ビジョンの主な内容は、以下のとおりです。

- 渋谷駅中心地区における広場空間の使い方と駅周辺全体を俯瞰した広場空間のより良いあり方
- 各方面の特性を踏まえた、広場空間に求められる機能や整備のあり方、配置、管理運営に関わるルール等を決めていく上での考え方
- 将来像の実現に向けた方策の考え方 等

2. 本ビジョンの位置づけ・考え方・対象

2.3. 対象

本ビジョンの対象とするエリアおよび対象とする広場空間は以下のとおりです。

(1) 対象エリア

本ビジョンの対象エリアは、渋谷駅中心地区とします。

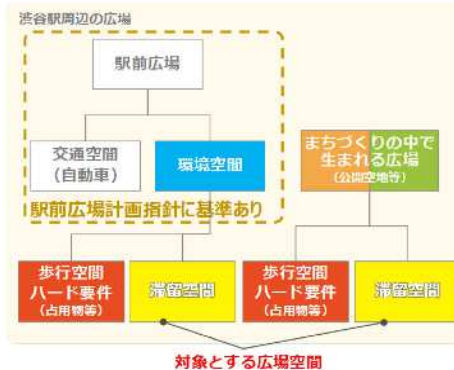
ただし、周辺の状況を見つつ、まずは渋谷駅直近の開発街区における広場空間についてあり方を提案し、渋谷駅中心地区全体にその考えを広げていきます。



▲渋谷駅中心地区広場ビジョンの対象範囲

(2) 対象とする広場空間の考え方

本ビジョンでは、駅前広場のうち交通空間（自動車）を除く環境空間と、公開空地等の公共的広場から、歩行に必要な空間と大規模な占用物などのハード施設を除く「滞留空間」を「渋谷ならではの牛み出す空間」と捉えて、本ビジョンの対象とする広場空間と考えます。



※駅前広場計画指針（建設省（現国土交通省）都庁都市交通調査室編修/1998年発行）：駅前広場の基本理念から機能、面積配分、配置計画までの考え方、ならびに検討手順、現況等の分析方法、面積算定の手法、計画上の留意点等を取りまとめたもの。

2. 本ビジョンの位置づけ・考え方・対象

(3) 対象とする広場空間

本ビジョンにおいて対象とする広場空間は、下図のようになります。

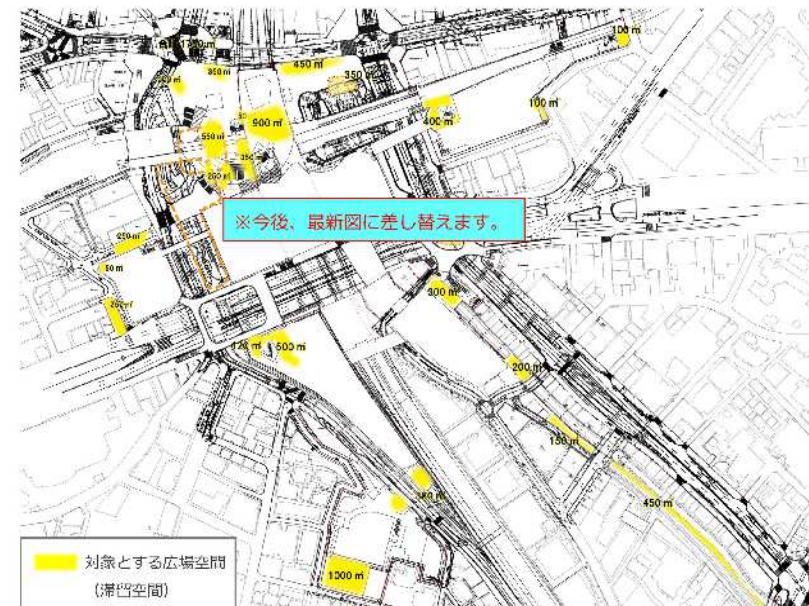
対象とする広場は、既に供用されている「既存の広場」、「今後新たに整備される広場」に加えて、既存の広場のうち「今後改良・円整備される広場」も含むものとします。

これら広場空間については、まちづくりの基本となる地区計画において、歩行者ネットワークの強化と併せて、多様な人々が活動し、安全・安心・快適で、人々が憩い、たまり、交流できる空間として整備されることにより、安全安心なまちの実現を目指すことに資する等が示されています。

さらに、西口広場のうちハチ公像周辺の広場空間（以下「ハチ公広場」と言う）・東口広場（地上・地下）・JR 線上空広場（先端部含む）・西口上空施設・地下広場は、渋谷のまちにとって「特に重要な広場」であり、地区計画等に示されている役割を担い、区・事業者・地元・学識をはじめとする関係者で様々な角度から、計画・設計を進めるとともに、適正な管理運営がなされることが必要となります。

※西口広場：ハチ公像付近を含めた西口広場空間全体を指します。

ハチ公広場：西口広場のうち、ハチ公像付近の広場空間のみを指します。



▲渋谷駅周辺における対象とする広場空間の分布

※既存の広場、ならびに現時点で計画されている将来広場を含む

3. 渋谷の広場を取り巻く環境

3. 渋谷の広場を取り巻く環境

3.1. 渋谷区のまちづくりの考え方（関連する計画）

渋谷区の計画では、これまでも広場に関する考え方や方針が示されてきました。また、渋谷駅周辺の現況、土地利用、現在の広場の使われ方から、渋谷の広場空間の特性を読み取ることができます。

(1) 渋谷区まちづくりマスタープラン（令和元年 12 月策定）

「渋谷区におけるまちづくりの基本方針」として、「区、区民及び企業等が、相互に連携・協力して進める協働型のまちづくり」の参考書の性格を持つものです。渋谷区が目指す将来像として「人々がいきいきと過ごせるパブリックスペースの創出」や、まちづくりのアプローチとして「公共空間を文化の発信の場として活用」など、広場空間を含めたパブリックスペースの考え方が掲げられています。

▼渋谷区が目指す将来像

A 多様なライフスタイルを実現する生活環境の創出
B 人々がいきいきと過ごせるパブリックスペース の創出
C 環境問題や災害リスクに対応するみどりや仕組みの構築
D 多様な文化や新しいビジネスを生み育てる舞台づくり

※パブリックスペース：渋谷区とは、公園、道路などの公共空間のみならず、民地の公開空地などもパブリックスペースととらえ、パブリックスペースの拡充、質的な向上を図るとともに、渋谷区が、地域の活性化、コミュニティの醸成、マネジメント、安全で安心して快適なまちづくりにつながる多様な活動を展開できる「場」としての活用を推進する。

(2) 渋谷駅中心地区まちづくり指針 2010（平成 23 年 3 月策定）

渋谷の文化の DNA が息づいた都市再生を実現し、国際的な観光文化都市となることを目指し、住民、企業及び行政が連携しとりまとめられました。

策定にあたっての考え方として、JR 線と国道 246 号により区切られたことによるエリアの特色を活かすとともに、まちへ人を送り出し、回遊とし、受け入れる駅・基盤・開発の一体整備が掲げられています。特に、渋谷駅中心地区は、各エリアをつなぎ「回遊性のある渋谷の玄関口にふさわしいエリア」とされています。

さらに、将来像を実現する 7 つの戦略から、広場空間に求められる機能を読み取ることができます。



▲将来像と 7 つの戦略

3. 渋谷の広場を取り巻く環境

3.2. 対象エリア周辺の特性

渋谷駅周辺は駅前のまちの広がりコンパクトであり、連日來街者でにぎわう商業エリアと落ち着いた住宅エリア、オフィスエリアが近接していることが特徴です。

(1) 土地利用

渋谷は、渋谷川により形成された谷地形と、その地形の中に織りなす通りが Y 字に分歧するなど、地形が特徴的です。

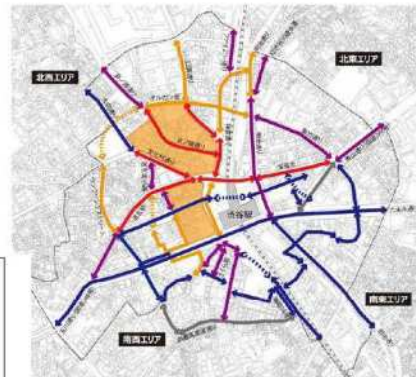
渋谷駅周辺の土地利用現況は、国道 246 号と JR 線によって分けられる 4 方面で特色が異なることが読み取れます。土地利用の違いから、広場の利用者の動向にも違いが生まれることが想像できます。



(2) 路線の特性

「渋谷駅周辺地域交通戦略」において、沿道土地利用や利用者特性の分類を元に渋谷駅周辺地域の各路線は下図の通りに分類されています。

渋谷の通りは、それぞれが特徴的であり、道路内歩道でも通行だけでなく滞留できる空間が計画されており、その通りに面する広場空間の計画に大きく関わります。



(3) 将来の歩行者交通量

現況交通量と開発計画から、将来の歩行者交通量を予測すると、北西方面の歩行者交通量が他方面に比べ圧倒的に多いことがわかります。また、南北でみると北側の歩行者交通量は南側の 2 倍以上であり、方面によって歩行者交通量が大きく異なっています。

また、交通量だけでなく、インバウンドの影響や通勤・通学、住民といった歩行者の属性も計画に大きく関わります。



3. 渋谷の広場を取り巻く環境

3.3. 対象エリア周辺の特性のまとめ

3.1 及び 3.2 から、対象エリア周辺の特性と広場に求められる意見や改善課題等を整理します。



	方面の特性	主な意見など※
北西方面	- 歩行者交通量：約 5.7 万人/時 - このエリアで最も商業が集積し、地下にも商業施設がある - 商業の集積により来街者が多く、全体の交通量も平日間わず多いことが特徴	- 渋谷の顔であり、待合せ利用が多く、待合せしやすい場所、目印、座れる場所、サイン、Wi-Fi や緑を求める人も多い - 歩きにくさや汚れ、混雑、騒々しさ、治安の悪さ等を感じる人が多い - ルールを作ることで、地元主導より安全にイベント等に活用できるようにし、不適切な使い方を少なくして欲しい。
北東方面	- 歩行者交通量：約 3.3 万人/時 - 北西方面に次いで交通量が多く、商業・業務・学校が混在し、来街者の特性が多岐にわたる - ヒカリエ広場では、植栽帯（ベンチにも利用）やキッチンカー、サインなどが配置 - 東口地下広場は、エリマネによる管理運営	- まちの回遊を支える広場が欲しい - スカイウェイ開通に向けた、渋谷駅中心地区および宮坂地区に向かう「まちの玄関口」としての賑わい創出を目指す
南西方面	- 歩行者交通量：約 2.1 万人/時 - 住宅地が広がり、居住関連交通が多い - 幹線道路沿道にはオフィスが多く立地し、他方面に比べ通勤者の割合が多い - 歩行者空間のあり方を、地元組織でも検討	- 巡り歩いてまちを楽しんでほしい - 周辺に広がる住宅地との接点となる広場としての利活用
南東方面	- 歩行者交通量：約 1.9 万人/時 - 幹線道路沿道にオフィスが集積し、通勤利用が多く、住宅地も広がり、居住関連交通も多い - 渋谷川上部の広場は、民間による管理運営	- 地域コミュニティ醸成の場 - 緑豊かな環境へ惹き込みたい - 渋谷川上部の稲荷橋広場・金干橋広場は、継続的な賑わい創出と、地域コミュニティ醸成の場となることを目指す
全体（管理・運営面）	- 歩行者量に対して広場が狭く安全面が課題 - 防災面で一時的に人が滞在できる空間が不足 - 治安の悪さ、混雑や歩きにくさに対して、安全な広場にするための警察との連携が必要	- 公共性の高い利用方法、周辺のまちとの協調、ルールに基づき広場を適正に使う人が増えて欲しい - インバウンド増に対応した観光的な視点 - 多様な広場や活動の、緩やかな相互連携 - 広場の使用、安全関係等に関する情報の共有化・可視化が必要 - 防災に備えた広場の役割

※地元調整協議会等における地元からの意見、広場運営書・イベント企画書へのヒアリング・アンケート、来街者向け Web アンケート

4. 渋谷駅中心地区の広場ビジョン(将来像)

4. 渋谷駅中心地区の広場ビジョン(将来像)

(1) 渋谷広場ビジョン/将来像

前章で整理した渋谷駅中心地区の位置づけや特性より、毎日たくさんの方が行き交い、多様性や寛容性を大切にしている渋谷駅中心地区における広場空間のあるべき将来像と、広場空間に求められる五つの機能を提案します。

渋谷駅中心地区の広場空間に求められる機能は、各機能に一般的に必要な役割に加えて、インパウンド増に伴う観光的な機能も踏まえ、渋谷ならではの地形や文化、まちづくりなどから生まれてきた役割を担うものと考えます。

【将来像】



そこで、まちへ繰り出す人が待合せをします。

そこで、働く人がランチを食べたり 読書をしたり。

そこで、訪れた人が流れる音楽に耳を傾けたり 隣の人と一緒に盛り上がったり。

アイデアを発信したり、友達が増えたり。

渋谷の広場で、渋谷のまちを彩るすべてが重なり交じり、

そこで人は、スクランブルする。

(2) 広場に求められる機能

機能	一般的な役割	渋谷ならではの追加すべき役割
ゲート (待合せ)	● 駅とまちの間にある ● 目印がある	● 交通量が多い中で、安全に待合せができる
憩い・潤い・ リラックス	● 静かで落ち着く ● 開放的でゆったり過ごせる	● 人の量や多様性があり周囲が気にならない ● 腰かける程度の休憩ができる ● 都心の中での自分だけの居場所となる
交流・ にぎわい	● イベントができる ● 人を集めるための仕掛けがある (にぎわい創出イベント)	● まちの中で個性豊かで多様な活動ができる ● 人が多いからこそできる、発信力を生かした仕掛けがある (広告・PR イベントなど)
情報発信	● 来街者向けの観光案内など「情報をキャッチできる機能」	● 来街者やインパウンドがまちを発信したり、個性を発信することでトレンド・文化をつくり出す「情報を世界に発信できる機能」
防災 (非常時)	● 一時待避場所 ● 災害情報の発信	● 駅から離れる方向への避難を誘導する機能 ● 災害時に利用できる非常用照明・電源、防災無線、Wi-Fi、情報発信サイネージ等

5. 広場が担う機能・管理運営の考え方

5. 広場が担う機能・管理運営の考え方

5.1. 広場の有する機能の考え方

前章に示した将来像と求められる機能について、各機能の具体的な考え方を整理します。

(1) ゲート（待合せ）

渋谷駅は1日に約330万人〔渋谷駅周辺地域交通戦略/令和2年より〕もの人が利用する巨大ターミナル駅です。駅周辺のまちへ多くの人移動するため、特に駅とまちをつなぐ広場には安全に待合せができるゲート機能がとても重要です。

考え方のポイント

- ◆待合せのための確保すべき空間は、将来の歩行者交通量に比例します。
- ◆駅の出入口を踏まえ、歩行者動線に近接して配置することが重要です。
- ◆空間確保と併せて、待ち合わせに対応した設えが必要となります。

(2) 憩い・潤い・リラックス

渋谷駅周辺は駅前の広がりコンパクトであり、連日來街者でにぎわう商業エリアと落ち着いた住宅エリア、オフィスエリアが近接していることが特徴です。

憩い・潤い・リラックス機能は人の居場所となる重要な機能であり、まちを巡り歩く來街者がちょっと腰かけて休憩できる場所から、住民同士が語り合いコミュニティを育む場所まで、求められる機能は多岐にわたります。

考え方のポイント

- ◆歩行者交通量や周辺の環境、土地利用等様々な要素により決まりますが、快適な空間はそれ自体が利用者を増加させる要因にもなります。
- ◆駅の出入口直近等の、歩行者の流動量が多くゲート機能が重要視される場所でも、現状程度の憩い空間を最低限確保します。
- ◆緑や椅子・テーブル等のファニチャーを設置するなど、周辺の環境に応じた憩いの空間を確保し、憩いの空間を整える設えとして、周囲の植栽や夏場の日陰等の要素にも留意します。

(3) 交流・にぎわい

渋谷駅中心地区の広場は特定の誰かの意志に縛られることなく、誰もが自由に自分自身の場所として利用することが重要であり、交流・にぎわい機能は、まちに付加価値をもたらす重要な機能です。

また、渋谷駅ならではの人の多さを活かした発信ができる空間とビジョンや屋外広告物を活かした発信できる設えを確保していきます。

考え方のポイント

- ◆各方面において期待される多様な活動の実現に必要な空間の確保とともに、地区全体では、交通規制を変更せず日常的ににぎわい創出ができる空間を確保します。
- ◆渋谷金王八幡宮例大祭や盆踊り等、交通規制を変更して車道も利用するイベントについては、日常的に必要な広場の議論とは別に、運用面での工夫等も含めて対応することが必要です。

5. 広場が担う機能・管理運営の考え方

(4) 情報発信

来街者の多い渋谷では、まちの中にある様々な資源までの確に導く案内機能が重要です。

また、渋谷駅はその人の多さから、まちの様子がメディアを通して頻繁に発信されることが特徴です。また、昨今のインバウンド需要から、ハチ公像やスクランブル交差点といった観光スポットを訪れる観光客も多く、SNS などを通して世界中に「SHIBUYA」が発信されています。

さらに、クリエイティブコンテンツやエンターテインメントの集積により、渋谷には個人が自由に表現し発信する風土が根付いており、新しいトレンドや文化が生まれ続けていることも特徴です。

考え方のポイント

- ◆ 広場には情報を「キャッチできる機能」と情報を「発信できる機能」の両方が重要です。
- ◆ 渋谷らしさを形成する大きな要素となるため、情報を発信・キャッチするための設けの工夫や施設を考えておくことが必要となります。

(5) 防災（非常時）

渋谷駅周辺には来街者が多く、災害時に多くの帰宅困難者が発生することが想定されています。

『渋谷駅周辺地域都市再生安全確保計画。』(Ver.2.4 令和 6 年 3 月) (以下「安全確保計画」という) では、「駅周辺や路上の混雑による混乱を回避するため、滞留者をあらかじめ定められた一時退避場所に誘導する」、「渋谷駅周辺の混乱を避けるために駅から離れる方向に誘導する」とされています。

考え方のポイント

- ◆ 非常時に必要な機能ですが、災害時に対応できる備えは、日常的な機能としても必須です。
- ◆ 安全確保計画を踏まえ、的確な滞留者誘導等に対応できるような情報発信が重要となります。
- ◆ 一時退避に利用できる空地は、特に駅近傍では不足が見込まれています。



▲『安全確保計画』一時退避誘導計画の基本付図 エリア内外の一時退避場所

5. 広場が担う機能・管理運営の考え方

5.2. 広場の管理・運営の考え方

(1) 管理・運営に関する考え方

将来像を実現するためには、広場を整備するだけでなく、使いこなしていくことが重要です。そのために、たくさんの人にとって使いこなしやすい広場となるよう、また、渋谷らしい広場の使い方ができるよう、さらには、まちの価値を高めるような広場の使い方ができるよう、持続可能な管理・運営の仕組みを作っていくことが大切です。

考え方のポイント

- ◆ 渋谷駅中心地区では、官・民の枠組みを超えて、使いやすく、使われやすい広場とするために、点在する広場空間を一体的に管理・運営していくことが重要です。
- ◆ 管理者、運営者が異なる広場間においても、各広場におけるにぎわいや交流等が、まちとしての価値向上につながるように、広場間での連携や情報共有を進めることが重要です。
- ◆ 継続的にノウハウの共有や連携を深め、関係者が一体となって歩み続けることが重要です。

【管理運営のルールと広場の条件について】

- ・ 点在する広場空間を一体的に管理・運営していくためには、広場の管理運営ルールが必要です。公共のための空間として、安全で快適に、適正な利用が促進されるためのルールであることは、全ての広場に共通した前提条件となります。
- ・ ルールの策定に際しては、「広場の位置づけ」「広場に期待される機能」「方面の特性」等に応じた適正なルールにすることが求められます。また、各地域における管理者や地域の組織の状況に応じたルールが必要となります。
- ・ ルールの対象範囲としては、以下が想定されます。これらの組み合わせも含めて、ルールに基づき適切な管理を行うことが望まれます。
 - ① 中心地区全体で策定
 - ② 方面の特性を活かした範囲や複数の広場を束ねて策定
 - ③ 施設固有の特性を活かして個別のルール（条例等）を策定
- ・ 「道路区域」の広場については、現在の利用状況を鑑みて、公共空間であることを踏まえ、より適正な利用の促進に向けて管理条例等の策定が必要です。
- ・ 「民地内の空間や道路占有物」についても、都市計画の位置づけや、公共施設を占有している施設としての認識の下、周辺のビジョンや壁面等を含めた広場空間全体としての適正な運用・利用方法のルールが必要です。
- ・ 「情報共有や共通ルール」により、公共施設でも民間管理の広場でも、協議会やエリマネ団体を通じて地域における活用を広げることが必要です。
- ・ エリマネ団体等の関係者の責任の明確化や、ルール運用や変更等に対応できる調整できる仕組みや、地元組織が参加しやすいようなルールであることも必要です。
- ・ 「特に重要な広場」については、関係者で様々な視点から議論を行い、エリマネ団体等による、適正な利用、管理運営、収益の活用等のルールが必要です。

5. 広場が担う機能・管理運営の考え方

(2) 情報共有・連携に関する考え方

考え方のポイント

- ◆管理者、運営者が異なる広場間においても、それぞれの広場でのにぎわいや交流等が、まちとしてのにぎわい等の価値につながるように、エリアマネジメント等の組織が主体となり、広場間での連携や情報共有を進めることが重要です。
- ◆具体的には、各立場により、必要とされる情報や連携の内容が異なります。
 - 広場管理者〔行政、事業者〕：各広場の管理と広場間の連携、手続き等
 - 広場イベント主催者〔企画会社等〕：利用申請手続きや関係機関調整窓口の一元化等
 - 広場利用者〔一般ユーザー〕：各広場のイベント情報や混雑状況等
- ◆これら情報を WEB サイトや SNS 等を活用し一元的に発信する等が考えられます。

① 広場利用の手続きの窓口一元化など（行政、管理者）

- ・情報の窓口としてエリアマネジメント等が、広場の利用状況やイベント情報等を集約・一元管理することにより、関係者に情報を展開する程度のゆるやかな連携を図ります。
 - 広場管理者・道路管理者は、全体像を把握でき、管理運営や手続き等がスムーズ
 - 交通管理者は、交通規制や大量の歩行者の集中に対する警備体制について事前に共有でき、さらに、道路使用等の手続きも一元管理により手続き負担が軽減なお、交通管理者との調整・確認は必要。
 - 日常時の利用と併せて、災害時における危機管理対策としても広場の利用状況の把握しておくことで、的確な対策を実施するための基礎情報を管理することが可能

② 広場のイベント企画利用に関する情報や手続き等の一元化など（イベント主催者など）

- ・イベント企画会社や地元団体等に対して、広場利用に関するイベント企画・実施・運営等の手続き（利用申請など）や情報の窓口を一元化・集約します。
 - イベント主催者は、開催したいイベント内容に合わせた規模や設えのある広場の予約や、管理者の異なる広場での、イベント開催や広場間の連携が容易になり、渋谷の広場空間を活用した賑わい創出を促進

③ 来街者に向けたイベント等の情報（発信）の一元化など（利用者）

- ・広場に関するイベント情報や混雑状況等を一元化・集約し、発信します。
 - 来街者は、情報の一元化により、渋谷の広場空間の利用を促進

④ 分かりやすい案内・情報提供が出来る仕組みづくり

- ・渋谷駅周辺における広場空間の情報（場所や施設情報など）を提供します。
 - 官民の情報の集約管理により、利用の活性化が起ころ、渋谷地区の魅力創出を促進
 - イベント主催者は、イベント開催がよりスムーズ
 - 来街者は、渋谷駅周辺の広場をより利用を促進
 - 「見つける・創る・つながる」を渋谷から」をコンセプトとする Shibuya Creative Junction.との連携

6. 広場ビジョンの実現に向けて

6. 広場ビジョンの実現に向けて

6.1. 方面別の機能配置の方針

各方面の特性と地元や利用者の意見等より、方面別の機能配置等の方針を整理します。

(1) 北西方面

方面別方針の考え方

- ◆ 交通量が多いため、安全を確保できる**待合せ（ゲート）**機能が非常に重要
- ◆ まちを巡り歩く来街者が短い時間で休憩できる**憩い**機能が特に求められる
- ◆ まちの顔になる方面であり、世界への発信力を持った**にぎわい**機能が求められる
- ◆ 人の多さを活かし、まちの案内など**情報**をキャッチできる機能と**発信**ができる機能が重要
- ◆ 非常時における人の集中が想定され、広域避難に関する情報提供などが必要

ハチ公広場やスクランブル交差点など、渋谷の顔となるエリア

- ・ 駅とまちを繋ぎ、来街者を迎え入れる**まちの玄関**となる**待合せ機能**や**案内機能**
- ・ **ハチ公広場、JR 線上空広場及び先端部**は、渋谷にとって**非常に重要な空間**、見る見られるの関係を意識した空間
- ・ ハチ公広場+スクランブル交差点とその周囲を囲むビジョン、壁面等のまとまった空間の魅力を最大限に活かし、**世界への発信力**を発揮できる空間
- ・ 特に**重要な広場**であり、安心・安全に適正な利用促進を図るルールが必要

中央街や桜丘方面への入口となる広場

- ・ 中央街や桜丘方面への**にぎわい**の**集がり**を演出することが求められる
- ・ **来街者がちょっと休憩**できるような休憩機能が求められる



6. 広場ビジョンの実現に向けて

(2) 北東方面

方面別方針の考え方

- ◆ 駅とまちの出入口となる広場には**待合せ（ゲート）**機能が不可欠
- ◆ 駅直近にはまちを楽しむ歩行者向けのちょっとした休憩ができる**憩い**機能。まちとの接点となる広場には通勤通学者向けの飲食などを伴う休憩ができる**憩い**機能が求められる
- ◆ **待合せ（ゲート）、憩い・潤い・リラックス、交流・にぎわい**機能を満たす広場をバランスよく配置することが重要
- ◆ 非常時における人の集中が想定され、広域避難に関する情報提供などが必要

宮益方面、青山方面への来街者や通勤通学者など様々な人が利用するエリア

- ・ **地上と地下に待合せ機能**を配置
- ・ **東口広場（地上・地下）**は、渋谷のまちにとって**非常に重要な空間**
- ・ 待合せ、憩い、にぎわい機能が**バランスよく求められる**
- ・ 北西方面に次いで交通量が多いため、**案内機能の充実**が求められる
- ・ 中央棟先端部や宮益坂等との**まちとのつながりや見る見られる**を意識した空間
- ・ 特に**重要な広場**であり、安心・安全に適正な利用促進を図るルールが必要



東側のまちとの接点となる広場

- ・ ヒカリエアーバンコアは、ネットワークと**待合せ機能**を確保。
- ・ **ゆったりとした憩い機能**が重要
- ・ 民地内の空間を含めて、**ちょっと座れる機能**の確保が求められる。

6. 広場ビジョンの実現に向けて

(3) 南東方面

方面別方針の考え方

- ◆ 駅とまちの出入口となる広場には**待合せ（ゲート）**機能が求められるが、北側の広場に比べ交通量が少ない
- ◆ 渋谷川や金王八幡宮といった自然豊かな地域資源を活用し、パソコン作業をしたり、ランチをしたりするための**憩い**機能が重要
- ◆ にぎわい創出のイベントや周辺の興業種間の交流により新たなイノベーションを起こすような**交流・にぎわい**機能が重要
- ◆ 非常時における人の集中が想定され、広域避難に関する情報提供などが必要



21

6. 広場ビジョンの実現に向けて

(4) 南西方面

方面別方針の考え方

- ◆ 駅とまちの出入口となる広場には**待合せ（ゲート）**機能が求められるが、北側の広場に比べ交通量が少ない
- ◆ 近隣の人たちが日常的に利用できることにより、地域のコミュニティを育むような**憩い、交流・にぎわい**機能が重要
- ◆ 非常時における人の集中が想定され、広域避難の情報提供など**防災機能**が必要
- ◆ 民地内の広場空間が多いが、周辺地域と一体となり、まちの安全・安心に資する適正な利用促進を図るルールが必要



22

6.2. 方面別方針の実現に向けて

基本的な考え方

- ◆渋谷駅中心地区の広場空間を、より良い空間として実現していくために、機能配置や設え、管理運営等考え方を整理します。

(1) 機能配置の誘導方針

●現計画の機能転換や新たな開発と合わせた機能確保の検討

渋谷駅周辺の各方面で必要とされる機能やその規模は異なります。

現計画における導入機能を精査し、将来的な機能転換等への対応、限られた空間の中で効率的に広場空間を創出するための重層的・立体的な広場空間の整備等を促します。

新たな開発に対しては、計画段階において、各開発に期待される機能などを調整することにより、各開発の公開空地等において必要な機能に対応した適切な面積の確保や配置を促します。

●機能配置の優先順位（日常的な利用に向けて）

待合せ空間や憩い空間等の広場内に必要な機能を配置する際は、歩行者の主要な動線を阻害しないことが必要です。

各広場空間の詳細検討の際は、人が多い渋谷において特に重要な「待合せ（ゲート）機能」を優先的に確保し、次に人の居場所となる「憩い・潤い・リラックス機能」、まちに付加価値をもたらす「交流・にぎわい機能」の順での確保を基本としつつ、柔軟な対応も可能とします。

例えば、日常利用としての憩い・潤い・リラックスの空間における植栽やベンチ等の少し休憩できるような空間を、イベント時には併せて空間を使用できるよう、植栽やベンチを可動式の設え、他機能との重複を考慮した配置等の工夫が必要です。

●設え等の工夫による機能の拡充

広場空間のより活発な利用を促進するため、面積的な確保だけでなく、広場空間に期待される機能をより強化するために、視覚や聴覚に訴えるような様々な広場内の設え等にも工夫を促します。

渋谷ならではの多層性を活かした「見る・見られるの関係」の確保や、近接する広場間の空間的なつながり等、周辺広場や周辺施設との関係性を大切にします。

目印やベンチ、植栽、ステージ等の設置により、必要な機能を満たす設えや、物理的に面積確保が困難な場所における広場の設え等の工夫と、併せて多目的に活用しやすいオープンなスペースの確保も踏まえて、機能の強化を検討する必要があります。

広場の前提となる安全と安心については、快適な空間であるとともに、死角となるような場所を作らない等の防犯面にも配慮した設えが、まち全体のためにも必要となります。

●災害時を想定した機能の確保

広場空間は、日常的な利用が基本となりますが、災害発生時には、多くの帰宅困難者等の発生が予想され、広場空間での一時的な待機や、情報収集の拠点的な役割を担うことも想定とれます。

「安全確保計画」に基づき、より多くの人の安全を守るため、滞留者を的確に案内誘導するための情報提供機能が求められます。

また、防災無線や非常用照明・電源、Wi-Fi 設備の確保や、広場空間の表層や段差、ベンチやテーブル等の設えについても、非常時の状況も想定し、留意しておくことが必要です。

(2) 管理運営の誘導方針

●管理・運営・運用のノウハウの蓄積

地元や事業者などから広く意見を聞き、広場を使う担い手を育てながら使いやすい広場としていく、広場整備のプロセスマネジメントを大切にします。併せて個別の広場計画・設計を行った際に、渋谷駅中心地区の広場計画全体にフィードバックする必要があるものは適宜留意事項として共有が必要です。

○利用者ニーズを随時くみ取る仕組みとして、社会実験やアンケートなどを実施

○既存イベントでの課題・アンケート結果等をストックし、フィードバック

○ルールの適用性や柔軟性を担保するための試行期間等の設定 等

●官民連携による効果的な仕組みづくり

広場の管理運営にあたっては、官・民が連携することにより、効率的かつ効果的により良い広場を維持していくことを目指します。

○より良い広場を継続するためのルール作り

○社会実験等により様々な取組みにチャレンジし、管理運営手法等にフィードバックする仕組み

○ストックしたノウハウを共有できる仕組みや組織 等

●新たな技術の導入による広場の効率的な管理・運営

新たな技術を活用した維持管理のツールを検討します。

○ロボットによる自動清掃など（維持管理の効率化）

○スマート広場（補修箇所や気になる箇所などを利用者（専用のアプリなど）やロボット等が発見して登録する仕組みなど）の実現 等

以上

一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント 2024年度活動報告



1. 屋外広告物地域ルール/工事中の魅力付け(落書防止対策等含む)

<工事中の媒体等を活用した広告掲出>

- ・旧東急百貨店東横店解体工事足場、渋谷憲章シート、東口地下広場などで広告を展開。
- ・工事中の仮囲いや道路上施設等を活用し、アート展開による持続的なまちの賑わい創出および歩行者空間の美装化を実施。



<アーティスト公募企画 "TYPELESS Vol.2">

- ・アーティストの挑戦の機会創出や落書き・ステッカー対策を目的した取組みの第2弾。
- ・公募で選定された塩澤 元基氏の作品を、ハチ公前広場の階段上屋壁面に掲出。



©Ryota Hashimoto

掲出前 (2025年2月6日)



©Ryota Hashimoto

掲出後 (2025年2月13日)

<渋谷地下街フェンス 賑わい装飾の更新>

- ・駅周辺の工事中の魅力付けを目的に菊竹教授と連携し2020年7月から装飾開始。
- ・経年劣化等により2025年2月に新デザインに更新、渋谷の多様性を表現した。



2020年7月実施装飾



新デザイン(2025年2月更新)

2. 情報発信

<HPによるイベント発信>

第Ⅲ期まちびらきの特設ページを開設。



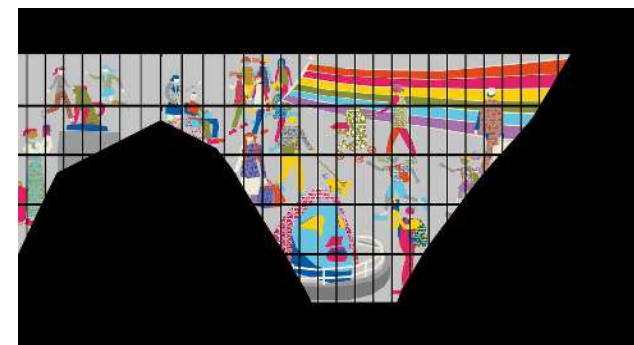
<大山街道PV>

渋谷区との連携で、大山街道整備プロモーションビデオを制作し、渋谷スクランブルスクエア東棟外壁ビジョン等で放映



<大学連携>

東京都立大学菊竹雪教授（当時）と、ゼミ生とともに渋谷らしい景観形成を目的とした映像作品を、渋谷スクランブルスクエア東棟外壁ビジョンで放映。



<ハチ公像後方仮囲いにおける昔の駅前風景写真掲出>

ハチ公像後方の枯山水一部撤去工事に伴い、3/26より設置される仮囲いの賑わいを創出するため、昔の渋谷駅前の風景写真を掲出予定。



仮囲い装飾のイメージ

<SHIBUYA WINTER ILLUMINATION2024-2025>

12/2、渋谷駅ハチ公前広場とShibuya Sakura Stage桜丘広場にてイルミネーション点灯式を開催。

- ・点灯期間：2024年12月2日(月)～2025年1月31日(金)
- ・点灯時間：17:00～23:00



ハチ公前広場・道玄坂（点灯式）



Shibuya Sakura Stage 桜丘広場（点灯式）

2. 情報発信 渋谷区との情報発信に係る協定に基づき実施した情報発信施策

<渋谷駅中心地区基盤整備情報パネル>

新南改札移転・渋谷サクラステージ本格開業に合わせ
渋谷駅周辺の将来像を示すパネルを掲出。

日程：2024年7月17日～

場所：JR渋谷駅新南改札前



基盤整備に関する内容



南口北側自由通路完成イメージ



<WALKABLE CITY SHIBUYA 渋谷百年未来のまちづくり（ブックレット）制作・配布>

めぐり歩いて楽しいまちを目指す渋谷駅中心地区の基盤整備に関する概要を一般向けにまとめた冊子を作成。
区役所や観光案内所での配布や、視察時の資料などに活用。

日程：2024年11月16日～

場所：渋谷駅周辺



3. 街区共同イベント

< 第Ⅲ期まちびらき >

みんなが創り、みんなが参加し、みんなで盛り上げ、世界に開かれた生活文化を発信する事を目的として実施

■ 各セレモニーの様子



渋谷アクシュ開業（7月8日）



新南改札移転開業セレモニー（7月21日）



Shibuya Sakura Stage OPEN（7月25日）

■ 告知展開



西口国道デッキシート



ストリーム2Fデッキシート



渋谷駅西口地下歩道

3. 街区共同イベント

< 第Ⅲ期まちびらき >

■ OPEN LIVE

渋谷のまちなかでストリートLIVEを開催！渋谷をステージに、様々なアーティストが音楽でまちに賑わいを生み出しました。

日程：2024年7月25日～8月29日の毎週木曜日

場所：サクラステージ、ストリーム、ヒカリエ、スクランブルスクエア、渋谷中央街、IKEBE SHIBUYA（全7回）

応募：182組、出演数14ミュージシャン



■ OPEN ART -渋谷アンデパンダン展-

渋谷の主要スポットを作家の才能をひらく場として提供。応募作品全てを展示。

展示期間：7月29日（月）～8月31日（土）

応募：147作品



渋谷区役所

渋谷区観光協会



■ OPEN CITY体験

普段入ることのできない渋谷の場所や、夏休みだけの特別な体験ができるツアーを開催

ツアー名：渋谷区役所庁舎見学ツアー（渋谷区）

渋谷区トイレツアー（渋谷区観光協会）等

体験数：14体験

参加者：239名



渋谷区役所庁舎見学ツアー

4. 防犯防災の取り組み

< 合同防犯訓練の実施 >

実施日：2024年10月4日（金）

渋谷警察署と各施設による合同防犯訓練を渋谷サクラステージSHIBUYAサイド2階桜丘広場で実施。防犯連携体制の検証を図り、実効性向上に寄与した。



5. 広場の利用

<「GREEN XROSSING SHIBUYA」プロジェクト>

廃棄された漁網を再利用した天吊りアートを展示。
 一社) Swithとの共催
 日程:2024年8月17日(土)～8月31日(土)
 場所:渋谷駅東口地下広場



<SHIBUYA OPEN LIVE 2024 AUTUMN>

街の回遊促進やにぎわいづくり、若手ミュージシャンの支援を目的に渋谷駅周辺の6カ所で開催。
 日程:2024年11月6日(木)
 場所:渋谷駅東口地下広場(会場提供)



<SHIBUYA OPEN LIVE at DIG SHIBUYA 2025>

渋谷区主催「DIG SHIBUYA 2025」のオフィシャルパートナープログラムとして、4日間にわたり開催。
 日程:2025年2月8日(土)-11(火)
 場所:渋谷駅東口地下広場(会場提供)



6. その他

<渋谷三桜祭連動 国道上デッキ利活用イベント>

道路協力団体指定を受け、「渋谷三桜祭」と連動した、こたつ等を設置した実証実験を実施。
 日程:2025年2月14日(金)～2月16日(日)
 場所:渋谷ストリームと渋谷スクランブルスクエアを繋ぐ国道246デッキ上



<モヤイ像移設除幕セレモニー>

2024年11月に移設されたモヤイ像のお披露目にあたり、渋谷区主催の除幕セレモニーの運営に協力。
 日程:2025年1月21日(水)
 場所:渋谷フクラス西口広場



<「秋の条例啓発キャンペーン」への参加>

渋谷区開催の「きれいなまち渋谷をみんなでつくる条例」の趣旨に基づく渋谷駅周辺清掃活動に参加。西口歩道橋デッキおよび西口地下歩道の清掃活動を実施。
 実施日:2024年11月1日(金)



■ 検討経緯・概要

- これまでのまちづくり調整会議の中で、駅前サインをよりわかりやすくすること、計画中のエリア外にあるバスタへ続くサインへの対応について議論。
- 2024年度においては、渋谷駅前サインガイドライン運営委員会事務局として、歩行者ネットワークに展開するサインのルール素案作成、将来の開発を見越した長期基本方針素案の作成、サインの改善検討方針の検討を行ってきた。

① 歩行者ネットワークサインルールの作成

将来整備されるバスタや動線となる施設がエリア外にあるが、駅前サイン・公共サインのすみわけ設定をしながら設置が必要

- エリア外の関係者の巻き込み範囲を設定（右図参照）。
- 新規追加箇所の位置関係等から、サイン設置の考え方をパターン別に整理

次年度 → 新規サイン設置の費用負担や適用ルールのフロー（継続）

② 長期基本方針の作成

関係者の予算確保や委員会の活動項目設定ができるよう、周辺開発状況を見越し、更新に関する基本的なフローやスケジュール感等、長期計画素案を作成

次年度 → 開発進捗に応じたメンテナンスを実施

③ 渋谷駅周辺のサイン改善検討

来街者にとって、よりわかりやすい案内誘導とするための検討を強化

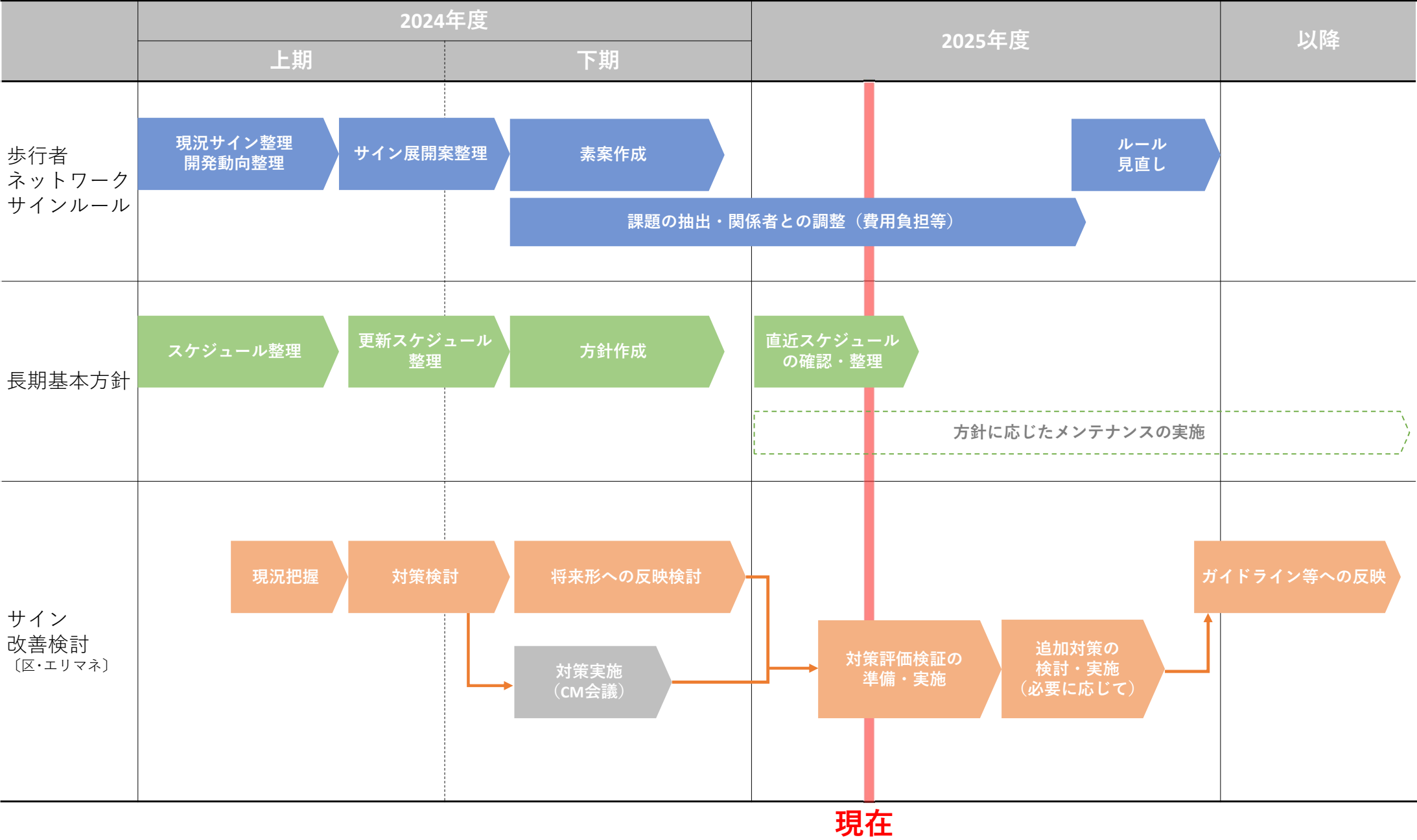
- 結節広場シンボルマークの掲出強化、ガイドラインの一部見直し、工事中サインとの連携等（CM会議報告資料参照）

次年度 → 見直し案に対する評価検証

■ 渋谷駅周辺の開発状況



■ 検討状況・進捗



■ 渋谷駅周辺のサイン検討にあたっての抽出課題

1. 竣工に向けたサイン新設の調整

- 新規物件については、サイン設置位置の自主審査会の開催や調整を含めると、竣工から逆算して約2年前から調整が必要。
- 特に渋谷駅前サインの適用範囲については利用者の利便性を考慮し、連続的に展開することが重要。
まち調等の工程確認の場で、事業者・サイン事務局とで相互に声掛けが必要。

 サイン適用の拡大に向けては、引き続き費用負担等の考え方を関係者間で調整。

2. 既存サインへの反映の調整

- 地図の一斉更新を鉄道・ビル事業者にお願ひし、予算確保をいただくためにも2年ほど前からの調整が必要。
- サイン事務局として長期基本方針を今後更新するにあたり、開発事業者からの詳細な情報提供が重要。（最終的な竣工に関する情報だけでなく、形状や通路が変更になる時期、改札が変更になる時期等、中間時の情報も含む）

 現在のサインについては表記ルールの見直し等も行いつつ、次年度以降、利用者の評価検証を行いながら、改善を検討。

工事中仮設サインの強化方針 ①JR3階中央改札周辺の案内

本設サインルールを踏まえて、工事中サインについても案内を強化

- 各拠点（改札前、分岐点等）における案内誘導先を明確にし、よりわかりやすい記載を行っていく

改札前 … 結節広場・公共交通機関

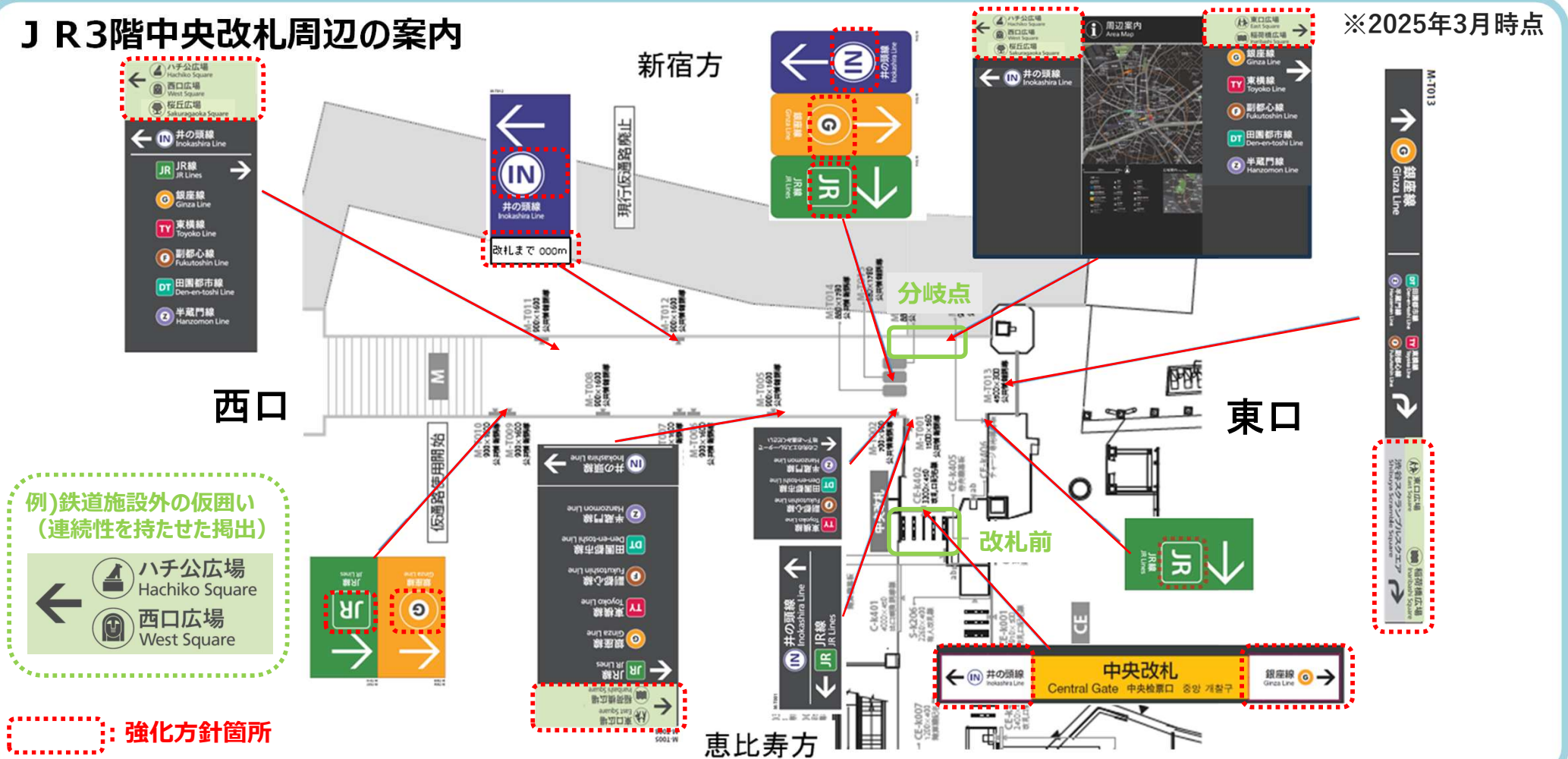
分岐点 … 結節広場・公共交通機関・ランドマーク施設

- 鉄道施設外の仮囲いについても、状況をふまえ連続性をもたせた掲出を実施する
- 工事進捗に伴う更新・移設が随時発生することを想定した管理方法を検討していく

※できるだけ負担がかからないような材料を使い、早期に案内変更内容を確認できるチェック体制を構築する

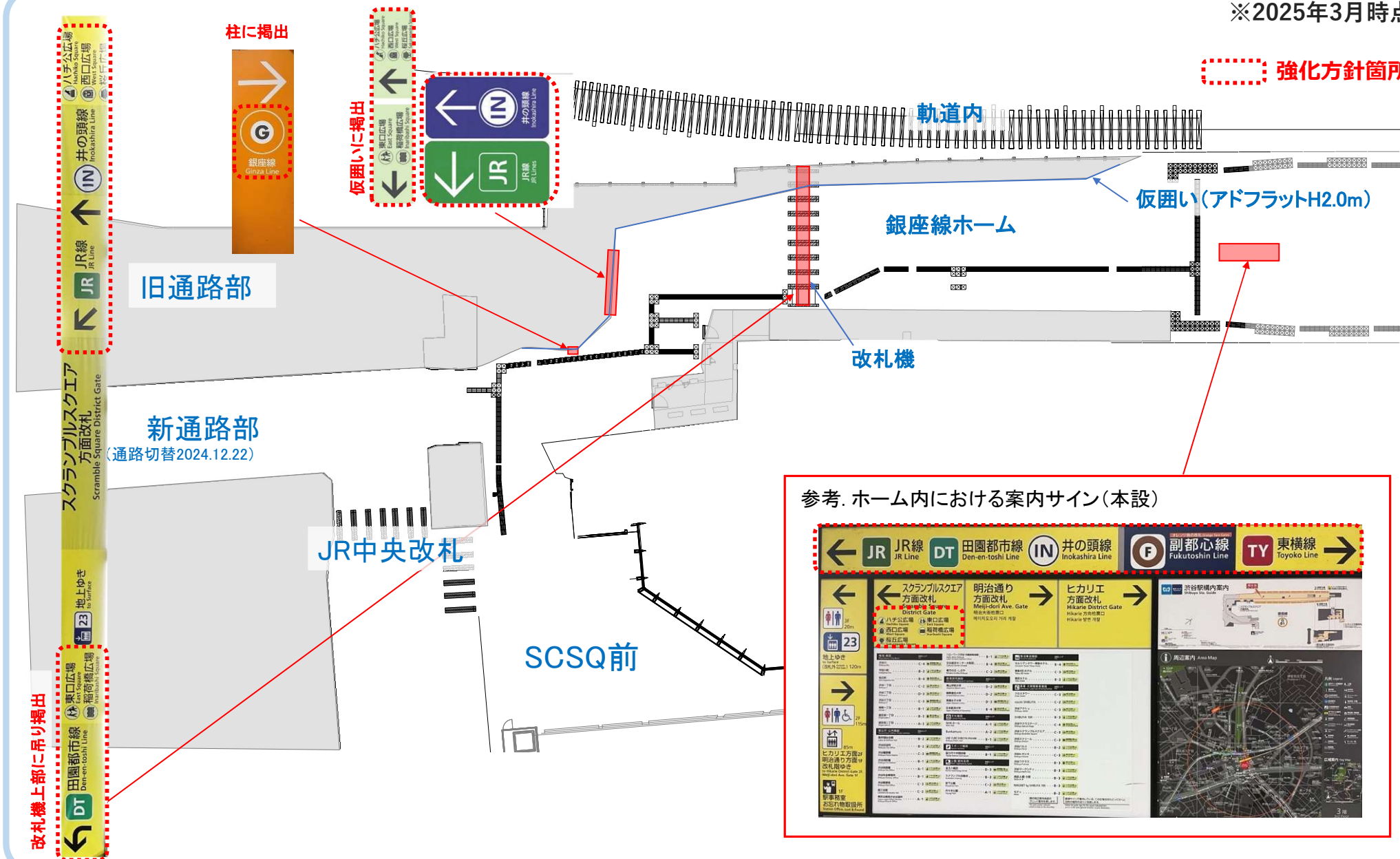
J R 3階中央改札周辺の案内

※2025年3月時点



- ・ **各拠点（改札前、分岐点等）における案内誘導先の明確化**
改札前、分岐点 … 結節広場（5広場）・公共交通機関

強化方針箇所

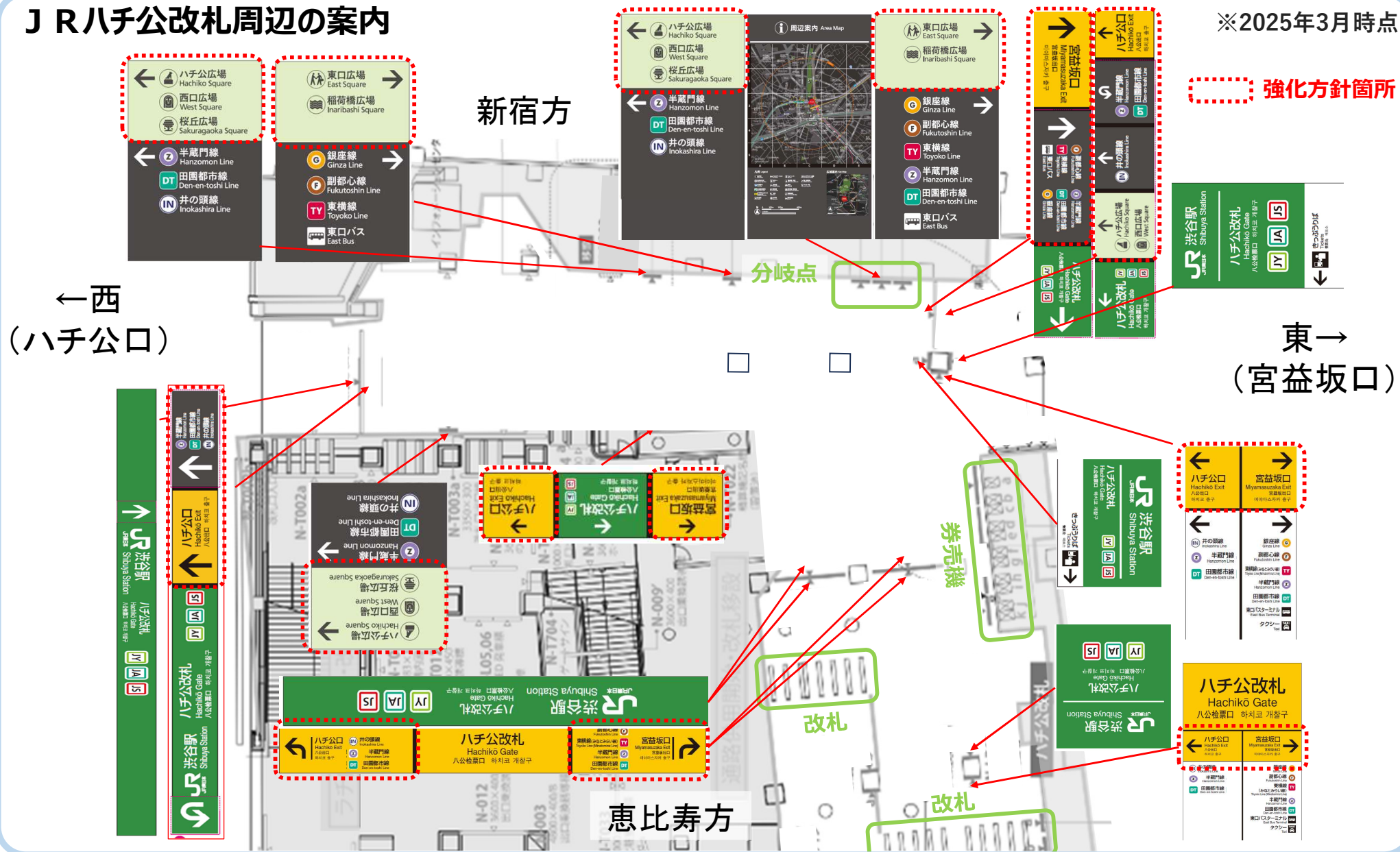


工事中仮設サインの強化方針 ③JR八チ公改札周辺の案内

本設サインルールを踏まえて、工事中サインについても案内を強化（3階中央改札周辺の仮設サインに準じて設置）

- ・ **各拠点（改札前、分岐点等）における案内誘導先の明確化**
 改札前 … 各出口（ハチ公口、宮益坂口）・公共交通機関
 分岐点 … 結節広場（5広場）・公共交通機関

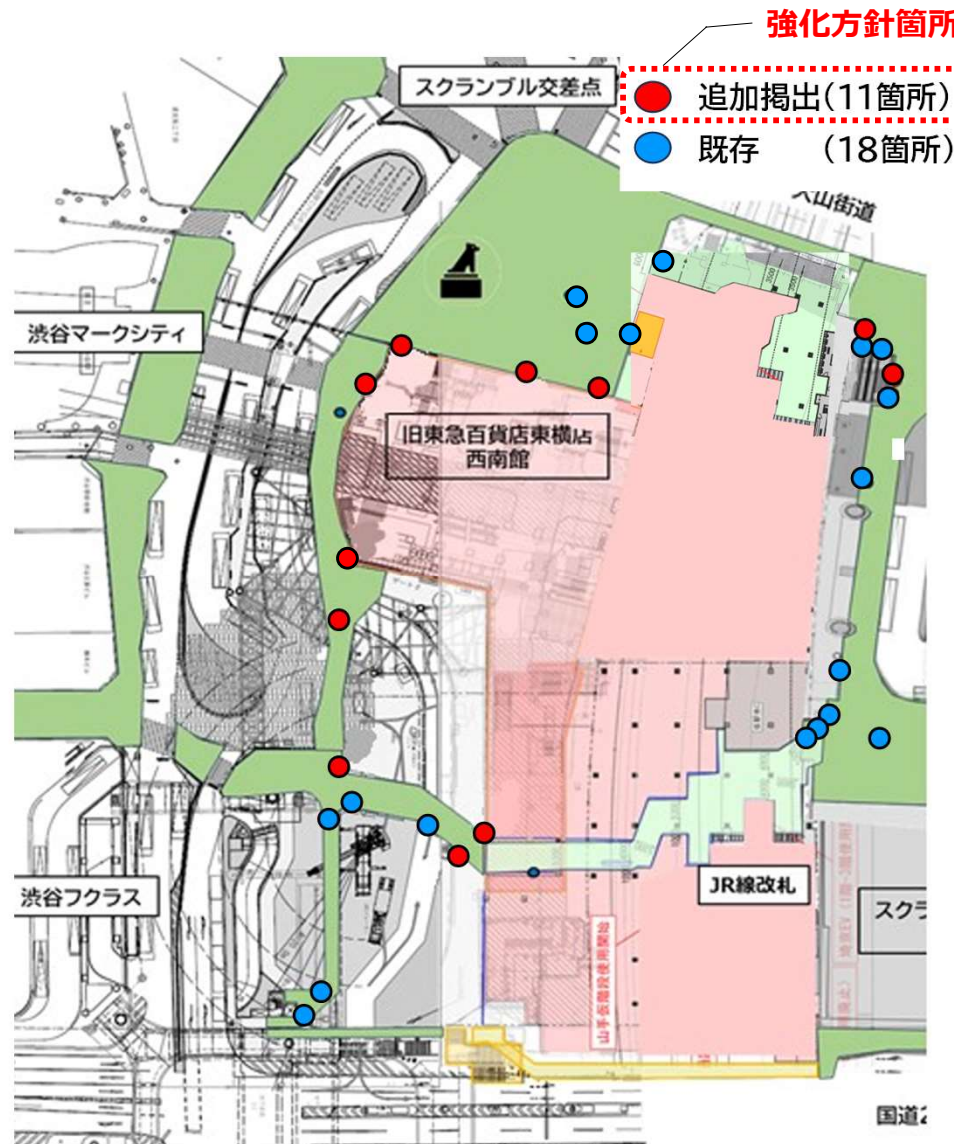
J R八チ公改札周辺の案内



工事中仮設サインの強化方針 ④渋谷駅街区土地区画整理事業周辺の案内

- ・本設サインルールを踏まえ、東西駅前広場仮囲いへの工事中サイン案内を強化
- ・連続性をもたせ、「近傍結節広場」、「公共交通機関」、「ランドマーク施設」の案内を掲出

追加掲出状況（一例）



※2025年3月時点

掲出サイン（一例）

